修士論文（要旨）
2021 年 7 月

日本国内のノンネイティブの日本語教師の新たな役割
－在住生活者の学習者の視点から－

指導　齋藤 伸子　教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
学籍番号 219 J 3902
楊静芳（ヤン・チンファン）

Master’s Thesis(Abstract)
July 2021

The Emerging Role of the Non-Native Teacher in Japan: The Perspective of Residents in Japan

CHINGFANG YANG
219J3902
Master's Program in Japanese Language Education
Graduate School of Language Education
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor:Nobuko Saito

第 1 章　はじめに..... 1
1.1　研究背景..... 2
1.2　研究目的..... 4
第 2 章　先行研究..... 4
2.1　ノンネイティブ日本語教師の特性 4
2.1.1　ネイティブ日本語教師とノンネイティブ日本語教師 4
2.1.2　日本語教師に求められる資質..... 6
2.1.3　ノンネイティブ日本語教師の現状と役割..... 6
2.2　地域日本語教育について 8
2.2.1　地域日本語教育とは 8
2.2.2　地域日本語教育の現状と課題..... 9
2.3　日本で生活するノンネイティブ話者への評価 10
2.3.1　ノンネイティブ話者に対する日本語評価..... 10
2.3.2　ダイバーシティの考え方 11
2.4　アイデンティティについて 12
第 3 章　調査概要..... 13
3.1　浜松の現状について 13
3.2 アンケート調査と学習者インタビュー..... 14
3.2.1　地域日本語教室の実態アンケート調査 14
3.2.2　在住生活者の学習者インタビュー 14
3.3.　分析方法..... 15
3.3.1　PAC 分析とは 15
3.3.2　本研究における PAC 分析 18
第 4 章　アンケート調査結果と PAC 分析の解釈..... 19
4.1　浜松地域日本語教室の実態アンケート調査結果..... 19
4.2　調査協力者 A さんの PAC 分析結果 27

4.2.1　調査協力者 A さんのプロフィール 27
4.2.2　調査協力者 A さんによるクラスターの解釈 27
4.2.3　稿者による A さんの総合的な解釈 29
4.3　調査協力者Ｂさんの PAC 分析結果 30
4.3.1　調査協力者Ｂさんのプロフィール 30
4.3.2　調査協力者Ｂさんによるクラスターの解釈 30
4.3.3　稿者によるＢさんの総合的な解釈 33
4.4　調査協力者 C さんの PAC 分析結果 34
4.4.1　調査協力者 C さんののプロフィール 34
4.4.2　調査協力者 C さんによるクラスターの解釈 34
4.4.3　稿者による C さんの総合的な解釈 36
第 5 章　総合的考察 37
第 6 章　まとめ 41
第 7 章　今後の課題 43

引用と参考文献
添付資料

日本で生活する外国籍者は増加している。出入国在留管理庁による令和２年(2020 年)６月末における中長期在留者数は 257 万 6622 人、特別永住者数は 30 万 9282 人であり、合わせて 288 万 5904 人にのぼる。在留資格からみると日本に住む外国人の多くが永住者で 80 万 872 人、次いで技能実習生 44 万 2422 人である。しかし、日本政府は増加していく外国人を移民ではなく一時的な居住者、一時的な労働者としてビザを発給する例がほとんどである。政府だけでなく、もしかしたら日本国籍者も、増えていく外国人の生活者に対し、いつかは自分の母国に帰っていく者だと信じているかもしれない。しかし本当に、彼らはいずれ母国へ帰るつもりなのであろうか。外国人の生活者が日本で増えるにつれ家を買う外国籍者も増加している。こうした傾向は、彼らが一時的な居住者としてではなく、定住の意思をもつ者の増加であるといえる。

日本で生活する彼らが日本語の必要性を感じ、日本語を学びたいと思ったとき、多くの人が地域日本語教室で学習することを選択している。その理由は、多くの地域日本語教育教室は無料、もしくはとても安価な授業料であるからである。また、地域日本語教室というからには、自らの生活圏に教室があることが予想され、通学しやすいという理由もある。

本研究は目的は、3 つの面からノンネイティブ日本語教師の活躍の可能性を探ることである。

①日本語教育の面では、学習者に寄り添える立場として、

②生活の面では、日本への理解の橋渡しとして、

③社会参加の面では、社会共生のための手本となり、

地域日本語教室の実態をアンケート調査することと、PAC 分析を用いて、日本に在住生活者であり、地域日本語教室での学習経験のある協力者へのインタビューを行った。

そうしたなかで、今回の調査の結果から、特にノンネイティブである日本語教師に期待される役割として、以下の 3 点を挙げた

ア：学習者の出身を問わず話しやすい存在として学習者の支援

日本語学習のため、異文化である日本の中で抱える孤独感、違和感に悩みは、ノンネイティブは敏感である。生活者の心の支えや、生活のアドバイできる存在であり。自らも学習者である立場からの、学習者の将来の夢から逆算した、今後の必要な学習の見通しへの相談にのること。

イ：学習者に対して日本に対しての思いを語ること

日本語を学習し続けて日本語教師になったモチベーションはやはり日本の何かが好きであったからということが予想される。日本語ネイティブ話者のように、あらゆる日本文化に精通していなくても、ノンネイティブならではの、日本語を学び続けた理由や日本の好きなことを語るということができる。

ウ：日本で生活しているノンネイティブへの生活情報の提供

地域教室や、地域コミュニティへ参加している者に対して、少しでも有益な情報を提供することで疎外感をとりのぞくこと。日本人が主催するイベントや教室だけでなく、ノンネイティブや、外国由来の生活者が主催するイベントや教室を応援し、日本人に紹介すること。

グローバル化が進展し、日本の社会は外国人の人材の活用が不可欠となった。現実として、非母語話者が日本の社会の多くを支えているこうしたなか、地域の共生向けて、親切な日本人は日本語教室や、異文化交流センターといった共生事業を始めようとする。そうして日本人や日本社会与えられたものにノンネイティブを参加させようとする。稿者は論文執筆にあたって、日本人と外国由来のノンネイティブ生活者の間に入る存在として、こうした日本語教室や交流イベントの時に活躍できると考えた。また、ノンネイティブの生活者とのインタビューを通して、ノンネイティブの生活者が、日本での生活の模範となる非母語話者の仲間の存在を求めていることを感じた。しかし、ただ間に入ったり、寄り添ったりする存在では足りない。日本国籍者とノンネイティブとの共生ために、日本人が作り上げた制度、社会システム、交流イベントの間に入るだけではなく、むしろ、ノンネイティブ生活者自身が共生のための組織やイベントを作り、そこに日本語ネイティブ、ノンネイティブを問わず巻き込んでいくことが必要だという考えに至った。こうした場面でノンネイティブの日本語教師がそうした動きを先導したり、間に立ったりすることが期待されるのではないだろうか。

【引用・参考文献】

阿部洋子・横山紀子(1991)「海外日本語教師長期研修の課題：外国人日本語教師の利点を生かした教授法を求めて」『日本語国際センター紀要』 1,53-74

石井恵理子（1996）「非母語話者教師の役割」『日本語学』 VoL.15 No2, 明治書院 ,87 ー94

池上摩希子(2007)「地域日本語教育」という課題 - 理念から内容と方法へ向けて」『早稲田大学日本語教育研究センター紀要』20,105-117

伊東祐郎（2009）「地域における新たな日本語教授法「参加型学習」導入の試み――共に育む活動の創造」藤森弘子，花園悟，楠本徹也，宮城徹，鈴木智美（編）『日本語教育学研究への展望――柏崎雅世教授退職記念論集』シリーズ言語学と言語教育19ひつじ書房 ,pp.465-478

宇佐美洋(2014)『「非母語話者の日本語」は、どのように評価されているか－評価プロセスの多様性をとらえることの意義』ココ出版

大平未央子(2001)「ネイティブスピーカー再考」野呂香代子，山下仁（編）『「正しさ」への問い―批判的社会言語学の試み』85-110

小河原義朗(2001)「日本語非母語話者の話す日本語に対する日本人の評価意識 - 日本語教育における言語意識」『日本語学』20(8),64-73.

岡本和恵(2010)「「ネイティブ」教師・「ノンネイティブ」教師の意識とその実践」．『阪大日本語研究』22,205-235

尾崎俊哉(2017)『ダイバーシティ・マネジメント入門｜経営戦略としての多様性』ナカニシヤ出版

尾崎明人2002「地域の日本語教室で教えるということ」『2001年度保見ケ丘日本語教育研修会報告』

尾崎明人(2004)「地域型日本語教育の方法論試案」『言語と教育－日本語を対象として』くろしお出版 ,295-310.

小澤伊久美子・坪根由香里(2015)「日本語母語とする現職日本語教師 A の「いい日本教師観」 PAC 分析で活用してわかること」．舘岡洋子（編),『日本語教育のための質的研究入門』ココ出版，ｐｐ 221-246

カイザーシュテファン(1995)「ノンネイティブ日本語教師の役割：異文化間教育の現場としての日本語教室を目指して」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』 10,95-106

川上郁雄(2010)『私も「移動する子ども」だった』くろしお出版

川上郁雄(2017)『公共日本語教育学―社会をつくる日本語教育』くろしお出版

久下景子(2013)「国内日本語教育の現状と課題」『外国語教育：理論と実践』 39,77-88.

久保田竜子(2018)『英語教育幻想』筑摩書房

Gehrtz三隅友子(2005)「地域型日本語教育－地域のニーズと現状を考える－」『日本語教育連絡会議論文集』 Vol.17,pp.79-88

小池真理(2003)「日本語母語話者は第二言語話者との会話をどのように評価するか」『北海道大学留学生センター紀要』 7,16-33

塩入すみ(2006)「留学生のアイデンティティ確立の過程 - 台湾人短期留学生の事例から」『京都橘大学研究紀要』33,192-172
嶋津百代(2016)「日本語「ノンネイティブ」教師の専門性とアイデンティティに関する一考察」『関西大学外国語学部紀要』14,33-46
嶋津百代(2017)「アイデンティティについて語るためのことば：外国語学習環境の日本語学習者によるディスカッションの考察」『関西大学外国語学部紀要』 17,1-16
髙橋雅子(2015)「国内の日本語教育における非母語話者教師に関する考察：多文化共生社会における語学教師の多様性を問う」『日本語教育実践研究』 2,104-113
田中里奈 (2013 「日本語教育における「ネイティブ」 / 「ノンネイティブ」概念 - 言語学研究および言語教育における関連文献のレビューからー」『言語文化教育研究』 Vol.11
陳良慶(2012)「教育実習を通じて見えてきた非母語話者日本語教師の利点」 . 『国際教養大学専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科日本語教育実践領域実習報告論文集』 3,pp206-230
土屋千尋 (2000) 「多文化クラスを運営する教師」『多文化クラスの大学間および地域相互交流プロジェクトの実施と評価に関する研究』平成 9 〜11年度科学研究費補助金研究 C-1 研究成果報告書 pp161 ー 170
坪根由香里・小澤伊久美・嶽肩志江 (2009) 「教師のビリーフ研究における PAC 分析活用の可能性と留意点 :HALBAU とSPSSによる分析結果の相違についての考察から」『言語文化と日本語教育』 38, ｐｐ 85-88
富谷玲子 (1998) 「日本語教室におけるネットワーク管理」『日本語教育における教授者ネットワークに関する調査研究－報告書－』日本語教育学会pp76－98
内藤哲雄(2003)『 PAC 分析実施法入門―「個」を科学する新技法への招待 (改訂版) 』 . ナカニシヤ出版
西口光一(2006)「在住外国人は日本社会への新メンバーか：地域日本語支援活動のあり方の再検討多文化社会と留学生交流」『大阪大学留学生センター研究論集』 10,61-64.
西原鈴子(20180120) 「「 正しい日本語」から「楽しい日本語」へ」日本語教育研修会配布資料 , 台湾交流協会
https://www.koryu.or.jp/business/japanese/training/2017/tabid1391.html
平高史也(2017)「日本語教育の公共性を問う」川上郁雄 (編) 『公共日本語教育学―社会をつくる日本語教育』くろしお出版 ,90-112
平畑奈美(2014) 『「 ネイティブ」とよばれる日本語教師：海外で教える母語話者日本語教師の資質を問う』春風社
古市由美子(2005)「多言語多文化共生日本語教育実習を通してみた非母語話者教師の役割」『小出記念日本語教育研究会論文集』13,23-36
細川英雄(2012)『言語教育とアイデンティティ―ことばの教育実践とその可能性』春風社
松葉優子・河口美緒・松本三知代(2013)「在住外国人に対する社会型日本語教育における一考察：浜松市外国人学習支援センターの取り組み」『浜松学院大学研究論集』 9,157-175
文部科学省 (平成29年告示) 中学校学習指導要領

横田隆志(2013)「留学生の日本におけるノンネイティブ日本語教師に対する意識調査」『2013　CAJLEAnnualConferenceProceedings』322-331
横溝紳一郎(2002)「日本語教師の資質に関する一考察 - 先行研究調査より」『広島大学日本語教育研究』12,49-58
米勢治子(2006)「外国人住民の受け入れと言語保障：地域日本語教育の課題」『人間文化研究』4,93-106

国際交流基金 -2018 年度海外日本語教育機関調査」．最後閲覧日2020年12月24日
https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey18.html
出入国在留管理庁．「在留外国人数について」最後閲覧日2020年12月24日
https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250012&tstat=000001018034&cycle=1&year=20200&month=12040606&tclass1=000001060399
出入国在留管理庁「在留資格について」最後閲覧日2020年12月24日
https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250012&tstat=000001018034&cycle=1&year=20200&month=12040606&tclass1=000001060399
独立行政法人日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査｜留学生に関する調査．最後閲覧日2020年12月24日
https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/zaiseki/index.html.
浜松国際交流協会 HICE| 報告書．最後閲覧日2020年12月28日
http://www.hi-hice.jp/publish/bulletin.html
浜松国際交流協会HICE「浜松市についてのデータ・統計」．最後閲覧日2020年12月22日
http://www.hi-hice.jp/aboutus/statistics.html
文化庁「日本語教育実態調査等｜文化庁」．最後閲覧日2020年12月24日
https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku_jittai/.
文化庁「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」（報告）について最後閲覧日2020年12月24日
https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/1401908.html.
文化庁．「日本語教育の推進法」．最後閲覧日2020年12月10日
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/other/suishin_houritsu/index.html
文化庁『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について．最後閲覧日2020年12月28日
https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/nihongo_curriculum/index_1.html
PAC-assistの使用に関する補足情報「 PAC-assist-supplement 」最後閲覧日2021年04月20日http://wwwr.kanazawa-it.ac.jp/~tsuchida/lecture/pac-assist-supplement.htm
外国人集住都市会議　最後閲覧日2021年 7 月20日
ttps://www.shujutoshi.jp/member/index.htm.